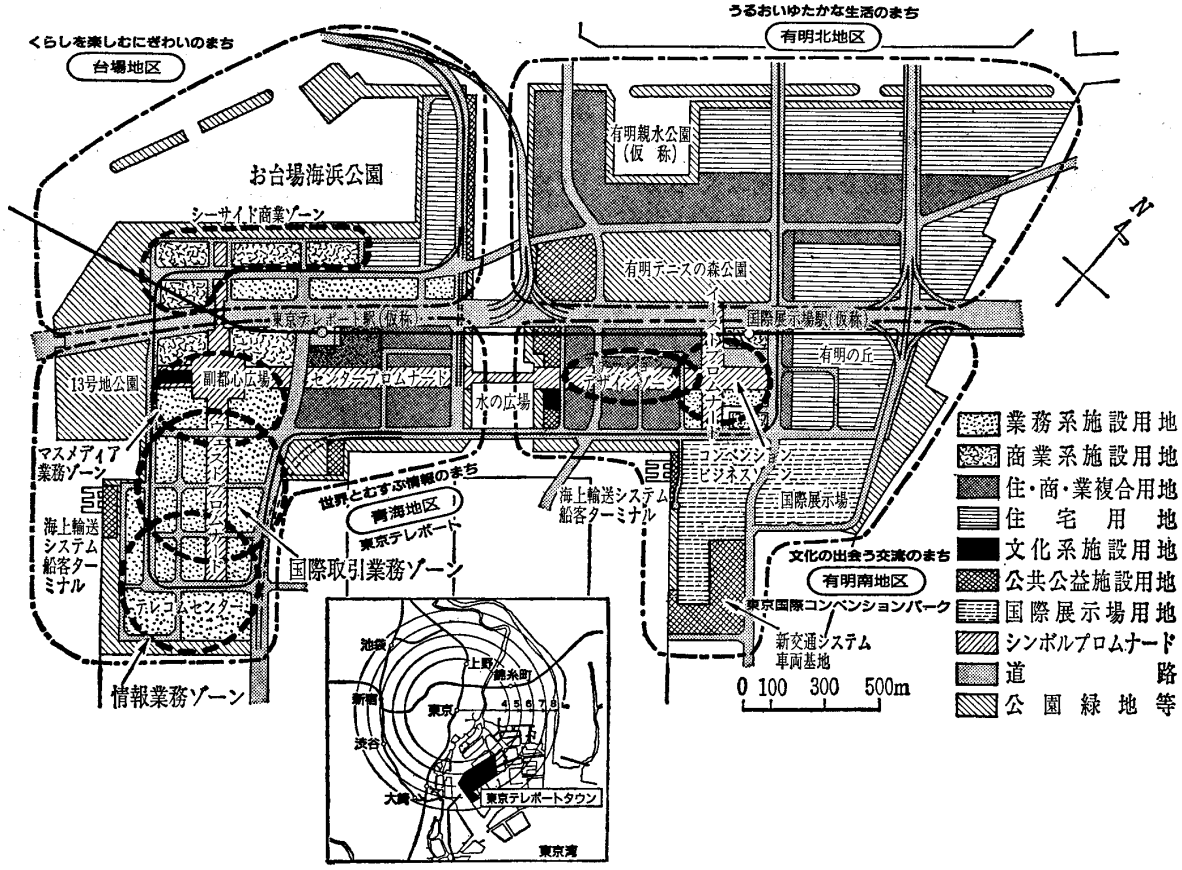
The Japanese Geotechnical Society

東京臨海副都心（東京テレポートタウン）計画

東京臨海副都心の建設は，都心部への過度な業務機能の集中を抑制すると同時に，職と住等がバランスよく配置された都市づくりを目的として計画された事業である。なかでも特に，大都市が抱える問題の解決策として一点集中型から多心型都市構造への転換をはかることである。次に情報化・国際化社会への対応という時代の要請に的確に応えることを目的とした未来型副都心を創出し，世界都市東京として魅力ある街づくりを目指すことである。

以上の背景の中，副都心を創出する候補地として，臨海部埋立地区が提案された。東京港において昭和36年以降に埋立てた土地が，約2731haあり，その



図―1　都市機能配置図

表―1　テレポートタウン年次計画表

年次	～平成5年度	～平成9年度	～平成12年度	平成13年度～
段階	第1段階〔始動期〕	第2段階〔創設期〕	第3段階〔発展期〕	第4段階〔成熟期〕
内容	基礎的な都市基盤や戦略的な拠点施設を整備する段階	円滑な都市形成を誘導する段階	自立的発展を促す都市機能の集積を達成する段階	東京テレポートタウンが完成する段階
主な施設の整備状況(想定)	東京港連絡橋（レインボーブリッジ） 新交通システム（新橋～有明南） 都市高速道路12号線 海上輸送システム テレコムセンター 国際展示場	晴海通り拡幅・延伸 環状2号線延伸（一部） 京葉貨物線旅客化延伸（新木場～青海）	環状2号線延伸 環状3号線延伸 都市高速道路晴海線 都市高速道路都心臨海線 新交通システム（有明南～豊洲～晴海方面〈勝どき〉） 京葉貨物線旅客化延伸（大崎まで）	京葉貨物線旅客化延伸（羽田・鶴見方面）

NII-Electronic Library Service

The Japanese Geotechnical Society

うち3分の1近い約850haが未開発のまま残されている。その未開発埋立地に，新しい臨海副都心448haの創出計画を立て，実現に向けて工事を開始することとなった。

建設の第一段階は，レインボーブリッジや新交通システムなどの主要な都市基盤施設と国際展示場（コンベンションセンター）やテレコムセンターなどの文化と情報，そして人々の国際交流の拠点となる中核施設を，平成5年度を目途に建設する予定である。

さらに，都市基盤整備と並行して生活基盤整備を実施し，各種住宅の建設を進めることになる。

全体計画は，“始動期”“創設期”“発展期”および“成熟期”の4期に大きく分けられ，21世紀の初頭には，種々の人々が生き生きと働き，快適なくらしを楽しむ“ウォーターフロント未来都市”が東京に誕生することになる。

東京テレポートタウン計画内で想定された就業人口は約11万人，居住人口は約60万人で多くの人々が新しい生活を行うことになる。特に，街づくりコンセプトとして業務・商業地区と住宅地区の調和を考え，人と自然にやさしい街づくりを目指している。

テレポートタウン建設の事業は，平成4年度現在，交通施設関連の工事が最盛期を向かえている。また，都市活動を開始するのに必要な土地造成や供給処理施設（共同溝，上下水道およびごみ処理場等）の建設についても，各地域で着手し，埋立地の中に続々とその姿を現してきている。

口絵写真—18～21も参照して下さい。

（文責：高木千太郎　東京都建設局主査）

（原稿受理　1993. 1. 18）

NII-Electronic Library Service